

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名 多賀城市児童発達支援センター 太陽の家

公表日 令和8年3月30日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12			場合によっては足りなくなることがある。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	4	職員の勤務状況により必要時には職員が協力し体制を整えるように配慮している。	少ないと感じる時、多いと感じる時など、クラスにより偏りがあるが、職員の配置基準を満たしていることから児童の利用状態によって、職員が臨機応変に動けるようにする。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		日々の清掃を丁寧に行い、活動に合わせた空間になるよう心掛けている。		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	1	クールダウンのための部屋等はなく、空いている部屋や廊下を使用している。また、ミニテントや段ボールの部屋、衝立等を使用することで対応している。	こども自らがクールダウンできる場所が確保できると良い。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	2			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12				
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	職員が自由に意見を言える機会を設定し、会議で共有する体制をとっている。	・面談等で意見を伝える場はあるが、業務改善にはなかなかつながらない。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	5		外部からの評価は行っていない。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		・研修後に報告書等で他の職員も学ぶ機会がある。	知識の獲得やスキルアップを目指し職員の資質向上のため、研修を行っている。外部の施設(同じ児童発達支援事業をやっている所)の支援方法や設備も見て学びたい。外部の視察等を計画。資格取得、現場対応、制度の理解など今後も計画的に進める。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	1		昨年度より支援プログラムを作成、5領域との関連性を明確にした支援の実施内容を公表しているが職員への周知が不足。職員間で内容を確認していく。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12				
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		児発管、クラス担任への聞き取りと確認をしながら共通理解の元計画を作成している。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12				
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12				

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1		基本は皆で考えていくが、週担当のクラスリーダー任せになっているところもあると思う。立案の内容ををもっと深めていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		多くの経験ができるよう、また、飽きないよう工夫していることもあれば、継続して取り組んでいることもある。クラスの実情に応じて、より、効果的な関わりが持てるように専門職職員からの助言も参考にしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	1	時間差で出勤の職員へはノートを通して引き継ぎ、バス送迎に出た時は、戻ってきてから共有するなど当日支援に入る際に内容については確認している。	朝の打ち合わせ時には常勤職員での一日の流れの確認を行っている。時間差で出勤の職員へはノートを通して引き継ぎ、各クラスで、伝えるべきことの抜けが無いように打ち合わせ方法を検討していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	4	そうじ等しながらではあるが限られた時間の中でクラス内で振り返り、共有をしている。また、必要に応じて専門職の先生を交えて話し合う機会をもっている。	打ち合わせとしての時間の確保は難しい場合があるが、クラス会議なども活用し、振り返りや内容を共有できるような時間がとれるよう工夫しており、今後もより良い方法を検討しながら進めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	1	職員間で協力し、支援の記録を取り、話し合う時間を取っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12			クラスからの情報を聞き取り、児童の様子を確認している児発管が会議に参加している。必要な場合には担任が同席できるよう調整していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12		必要に応じて、各関係機関と連携できるよう普段より連絡を取り、協力をいただけるようにしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		併行利用の児童が関係する保育園等と情報共有したり、訪問したりしながら連携を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		各学校との情報共有を行い、相互理解を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。	9		センターとして、他事業所と連携を図っている。	地域の障害児通所支援事業所等とのつながりを持ちながら、今後、地域全体の活性化、質の向上を目指していけるよう必要な情報を共有しながら関わる。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	10			研修を行ってはいるが、今後、幅広く知見を深めるためにもさらに計画、検討していく。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	9	1	自立協の会議へ相談支援事業より職員が参加している。	
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12		交流保育の実施。保育所の年長児と当センターの年長児で、交流の機会を年2回持った。訪問と来所1回ずつで、来所時にはセンターの他学年も参加予定で計画したが、悪天候のため保育所来所ならず、実施できなかった。	地域の同学年との交流が持てるよう、次年度も交流の機会を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	10	1		保護者の状況を確認しながら共有を進めていく。どんな支援が可能かを一緒に検討できるような機会を設けている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10			センター内での研修について随時案内と可能な場合に声掛けを行っている。児童発達の勉強会は基本的なことが学べるよう設定しており全員参加を予定している。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11			支援プログラムの説明が不足していた。HPへ掲載しているがきちんと説明を行っている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		保護者との面談を行いながら、家族の意向を確認し、計画の作成に繋げている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12		個別支援計画作成後、保護者への説明をしながら同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	3	保護者が参加する療法日を設定し、顔を合わせる機会がある。その前の時間を活用し保護者同士が話し合う時間を設定している。	保護者同士がお話をする機会の「おしゃべり会」や懇談会、奉仕作業のご協力をいただきながらの会話の機会を設け、保護者の方が交流できる機会を設ける。きょうだいの交流は外部の機会があるときにお知らせしている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		毎月、センターだより、クラスだよりを発行し情報提供や、児童の様子等をお知らせしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	3	太陽の家での取り組みを知っていただくために市内関係機関の方々の見学会を実施。	今年度は、地域の関係機関の方々の参加であったが、今後地域の方々への周知も行う予定。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		災害、感染症、緊急時の対応について訓練を行い、保護者へも協力をいただいている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12		食物アレルギーのある児童については、受診により検査結果を提出、本人の状況に合わせて食事の提供を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	1		

51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		ヒヤリハットを作成し、職員間で共有、再発防止に向けて取り組んでいる。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12			支援に対して、発言や対応に配慮できるよう職員間での共通認識が必要。虐待防止に関する研修の実施、さらに日常の職員間の言動について意識するよう会議等での確認も行っていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12		やむを得ず、身体拘束を行う場合について、個別支援計画に記載し、説明を行っている。	